（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3291400095		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の杜		
所在地	島根県雲南市加茂町南加茂706－12		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouryou.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3291400095&SCD=320&PCD=32

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPOしまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	平成24年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成23年4月、既存のグループホーム（2ユニット）の隣接地に開所し、まもなく一年を迎えようとしている。開所から約2ヶ月で満床となるが、既存のグループホームで認知症高齢者ケアを学んだスタッフの異動もあり、入居当初の利用者の混乱にも対応できている。利用者主体の生活を常に考え、日々のケアにあたるとともに、小さなことでもスタッフ間の情報共有をはかり、チーム作りを進めているところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、既存のグループホームでの経験を活かし帰宅願望の強い利用者に寄り添いながら安心して過ごしてもらえるよう努めてきた。職員はお互いに情報を共有しながらゆったりとした時間の中で利用者と同じ目線で向き合い日々のケアに取り組んでいる。利用者はホールでレクリエーションをしたり、日課となっている趣味の書道をしたりして過ごすことが多い。敬老会やボランティアによる絵手紙や音楽リハビリ等隣接しているユニットと合同で行われ、利用者はユニット間を自由に行き来し交流をしながら楽しみのある生活を送っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で理念を読み上げ、共有しており実践につながっている。	毎月の職員会議で理念を読み上げ、議題に沿った話し合いの中で理念を振り返り、全職員で共有しながらケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、加茂の郷・杜の催しに地域の方を招待するなどして交流が出来ている。交流の中から顔なじみが出来つつある。	地域行事に参加したり、事業所の笹巻会や、納涼祭には中学校の吹奏楽部、そば打ち会の人に参加してもらったり模擬店にも参加してもらう等、地域の人と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な発信はしていないが、行事や面会などで地域の方と話す機会があるときに支援の方法や認知症の特性について話し合うことはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告を職員会議などで行い、意見を職員に周知しサービスに反映させている。	活動報告や情報交換を行い意見をもらっている。出席者から口腔体操についての助言を頂き、利用者のサービス向上に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度などでわからない点など気軽に尋ねることができ、市町村側からもきちんと回答を得て、運営をすすめていくことが出来ている。	日常的にわからないことを尋ねたり情報交換を行う等協力関係が築かれている。利用者の入退去時にも相談し意見を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。夜間帯や居室内での一人歩行が危険と思われる方にはセンサーマット、チャイムセンサーを使用し、危険防止（転倒防止）に努めている。	職員は事業所内の勉強会や外部研修に積極的に参加している。特に言葉遣いについてはその都度話し合い、ユニット会議でも職員の共通認識として話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修報告を職員に行い、虐待が発生しないよう周知している。日々、利用者の様子観察を行い、見過ごすことのないよう努めている。虐待防止関連法について学ぶ機会がもっとあると良いと思う。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会は設けていないが、今後は学びたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・主任が説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情や意見を受けてユニット間で話し合うなど運営に反映できている。運営推進会議などで外部者への発信も出来ている。	家族の面会時に意見や要望を聞いている。意見、要望は必ず会議等で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。日々、発生する意見や提案も受け止め反映できている。	管理者は、月一回のユニット会議や職員会議等で意見を聞くようにしている。居室内での転倒が予測される利用者に早期対応の支援が出来るよう、ドアの代わりに暖簾にする等の職員の提案がケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に状況把握に努めており、やりがいのある職場となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に適切な研修参加を勧めている。また、園内研修を行い、研修テーマを職員から募るなど、自分たちの研修と捉え参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設実習への参加を募り、他施設との交流の場、学びの場を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安軽減や思いに耳を傾ける努力が出来ている。声かけや接し方などに気をつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とコミュニケーションを図ることで、不安や要望を聞くことが出来、関係作りが少しずつすすんでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・主任で見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共有し、支えあう関係作りが出来ている。（家事の手伝いなどしてもらっている。）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、絆を深められる環境に配慮している。家族と職員の会話の場を持ち、情報交換に努めることで利用者を共に支えている。また、受診などでも家族の協力を頂いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状態により現実は難しいこともあるが、馴染みの人の面会があった場合、尋ねてきやすい環境と対応に配慮している。今後、馴染みの関係が継続できるよう努めていく。	家族の協力で利用者の知人に声掛けしてもらい面会に来てもらったり、利用者の希望で自宅に電話を掛けたり、絵手紙を出す等、継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、利用者の様子把握に努めており、穏やかに過ごせる関わりへの支援ができている。トラブルが起こらないよう、職員が配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方が1名ある。退居にあたってのご家族・ご本人からの相談には対応し、在宅生活への移行につなげることができた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えや希望には常に耳を傾け、可能な限り思いにそって対応している。	職員は昼食後の時間などを利用してゆっくり話す時間を作り、利用者の表情を見ながら傾聴し思いの把握に努めている。職員はユニット会議で利用者の思い等を話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り情報をカルテに記入し、職員間で周知できるようユニット会議や日々の情報交換の場で伝達している。家族や利用者のとの会話の中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで生活できるよう、柔軟な対応をし、常に精神・身体状況を把握して対応している。できる力を大切にし、見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でより良いケアの方法や援助について話し合っている。	家族の意見は面会時に聞きプランに反映させている。利用者の状況に合わせて柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で、職員が利用者の状態把握ができるよう、詳しく記録することに努めている。介護計画の見直し時にも役立っている。職員間の連絡帳も活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、絵手紙や音楽リハビリなど、地域の方のボランティア活動を行事にとり入れたり、地域の保育園児との交流など、楽しみの多い豊かな暮らしとなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族共に納得されたかかりつけ医の診療が受けられており、日頃から異常が見られた場合に相談するなど、事業所との関係も築けている。かかりつけ医の往診も受けている。	受診は家族が対応しているが、状況に合わせたり遠方の家族に代わり職員が支援している。情報は家族と共有している。夜間や緊急時には看護師の指示のもとマニュアルに沿った支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に情報伝達や相談などできており、適切な指示が得られ、受診につながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の受診で病院関係者との関係はできており、入院した場合の情報交換や相談はスムーズにできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階で該当者はいないが、契約時に事業所の方針を伝えている。重度化や終末期については、今後話し合いの場をもつことになると思う。	入居時に医療との連携について事業所の方針を家族に説明している。ターミナルケアの勉強会を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、急変や事故発生時に備えている。また、園内での勉強会も開き、酸素の使用方法や吸引器の扱い方を学んでいる。目につくところにマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に受けており、全職員が対応方法を学んでいる。地域の協力を得る体制作りはこれから取り組んでいく。	定期的に訓練を行い、警備会社の協力で火災ベルの使い方や関係部署への連絡の仕方等の指導を受けた。菓子、乾物等の備蓄品があるが、水・燃料の確保についても検討したいと考えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている。人前でのトイレ誘導の声かけに配慮し、トイレ時は必ず戸を閉めることなどプライバシーを守っている。	排泄の声掛けに配慮し、排泄時には戸を閉める等基本的なことに気を付けている。職員は特に言葉遣いについて利用者の誇りやプライバシーを損なわないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を口にできる環境であるように心がけている。自己決定ができるような問いかけと、決定を待つことを心がけている。意見を聞く場面を増やす努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあったし生活をしてもらえている。希望を聞く場面を今後増やしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活が継続できるよう、化粧や整容に対する支援ができている。衣類を選んでもらうなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、食器拭きなど職員と一緒に行っている。利用者と同じ食事をとりながら会話し、楽しんでもらえていると思う。	職員も同じテーブルを囲み会話をしながら和やかな雰囲気作りをしている。利用者は片づけや、食器拭き等を利用者同士楽しく会話をしながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量、形態などに配慮している。水分量は特に注意しており、不足しないよう声をかけながら摂取してもらっている。今までの習慣を大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアができている。自立の方には声かけ、時に様子を見るなどし、介助の必要な方には出来るところをしていただいた後、出来ないところのみを手伝っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、一人ひとりの間隔にあわせた声かけや誘導を行っている。オムツに頼らず、できるだけ汚染のないよう職員間で話し合っている。	排泄チェック表を基に一人ひとりに合った声かけで、トイレで排泄出来るよう支援している。天候や利用者の状況によって、パットの種類の使い分けをする等工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然に排便できるよう、水分や食べ物への配慮をしている。体操や散歩など、運動も毎日習慣として行っている。便秘の方は下剤などで調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯（13:30～16:00頃）は決めているが、時間帯内の希望時間や入浴時の雰囲気、一人ひとりのペースを大切にし、楽しい入浴となるよう心がけている。	利用者が入りたいと希望すれば柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には仲の良い方同士で入って貰ったり、入浴剤を使用する等工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣のある方、体調に合わせて休んで頂く習慣のある方など、状態に合わせた対応を行っている。夜間眠れない時は見守ったり、気持ちよく眠れる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどのような薬を飲まれているかは、カルテを見て把握に努めている。服薬確認をきちんと行うよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割をもち、メリハリの生活ができている。生活歴を知り、趣味を活かせる場面が増えると良いと思う。夕食後、入眠までの時間のゆとりについて工夫したい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、外でのレクを行っている。様子をみながらドライブや買い物に出かけている。今後は家族等にも協力を求め、出かける機会を増やせたらよいと思う。	利用者は、法人内の畑を散歩したりゲートボールを楽しんだりしている。計画を立てて正月には初詣に出かけたり、天気の良い日にはドライブで花を見に行ったり等支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方はいないが、希望の品があるときは、買い物に行くことを考えていきたい。職員が希望の品を買ってくることが多いが、、支払いや残金など説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時に電話してもらっている。家族の都合で、かけられない方もあり、強く希望される場合には事前に了解を得るなど家族と協力し合っている。絵手紙などの作品も便りとして出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つよう努力している。共用空間には花を飾ったり、絵や書を掲示するなどの工夫をし、暖かい雰囲気作りができている。日中ホールで過ごされる方が多いのも、良い雰囲気が作られているからだと思う。	貼り絵や手作りカレンダー、写真、絵手紙、書等の利用者の作品が飾られ、畳の部屋には炬燵があり利用者がくつろげる場となっている。テーブルとソファーが置かれ、面会時等ゆっくり話が出来るようにしている。	居間とトイレの温度差があまり感じられないような工夫を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分の過ごしたい場所で過ごされている。居室がベッドの方も、午睡はホールのコタツで休まれるなど、好きな場所で好きな人と過ごしてもらえている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やコタツなどを置き、自分の部屋と思ってもらえるよう工夫している。清潔な環境を保つ為、毎日掃除、整頓に心がけている。	朝の掃除時には必ず換気をし、清潔に心がけている。タンスや机が置かれ家族の写真や本人が書かれた書が飾られている。日記を書く習慣のある利用者は、ペンやノートを持ち込み安心できる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示、自室に表札やのれんをかけるなど、わかりやすくしており、迷われることが少なくなった。		